



築理会 会報

2024 Spring vol.73

東京理科大学工学部建築学科校友会

CONTENTS

2P 特集 デジタル名簿はじめます!

まずは【築理会会員データベース】のご自身の情報の確認・修正をお願いします

5P 「先輩と語る」 2023年報告

学部3年生の授業カリキュラムに組み込まれ、多くの学生が参加

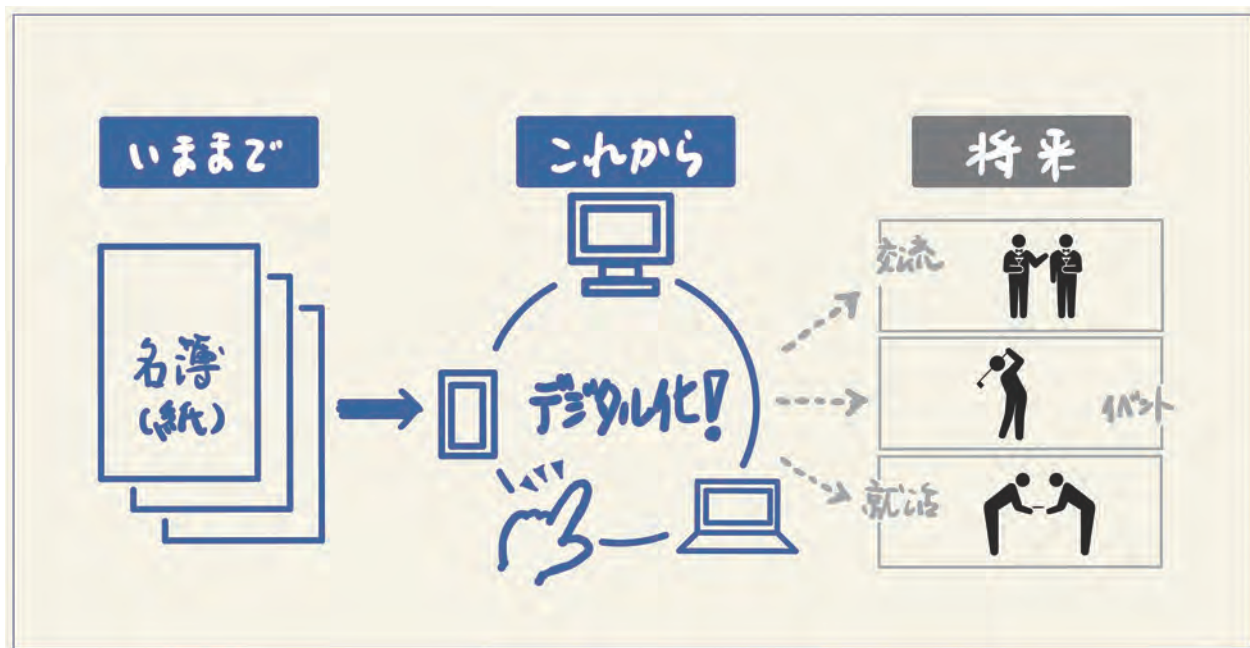
6P 第1回新宿みらいアイデアコンペの開催経緯から結果まで

8P 2024年度 築理会総会・講演会は5月25日(土)開催 JFMA賞受賞、墨田区 戸梶大氏の基調講演決定!

築理会の最新情報を、HP、メルマガ、Facebookで配信しています。
築理会活動へのご意見・ご要望、会員の情報がありましたら
お寄せください。

chikurikai@gmail.com

特集 デジタル名簿 はじめます！



築理会は昨年度から会員データベースの再構築とクラウド化に取り組んできた。この会報誌が皆様の手元に届いた時点から、【築理会会員データベース】の運用がスタートする見込みだ。これまで、紙に頼っていた名簿システムのデジタル化により、卒業生の情報がいつでも、どこでも検索して取り出せる環境を整え、様々な会員活動をサポートしていく。

会員データベースの再整備とクラウド化のねらい

築理会会長 石橋敦之

築理会の会員の皆さま

日頃より、築理会の活動にご理解、ご協力いただきありがとうございます。

昨年度より、事務作業の効率化と築理会の運営や会員サービス、今後の会員間のネットワークづくりの基本となる会員データベースの再整備とクラウド化を行ってきました。この会報誌が届きます時点より、【築理会会員データベース】の運用を開始いたします。今後は会員の皆さまが、直接ご自分の情報を確認・修正していただくことになりますので、よろしくお願いします。

同封の住所記載の払込み用紙に会員コードとパスワードが記載されております。ご確認ください。この会員コードとパスワードはご自分の情報を確認・変更する重要なものです。他人にわたることの無きよう、しっかりと個人で管理いただきますようお願いいたします。

全ての会員の皆様は、下記アドレス、または築理会ホームページの上帯の会員情報のタグより【築理会会員データベース】にログインしていただき、ご自分の情報の確認・修正をお願いいたします。

また、2024年秋（予定）より、このデータベースを利用して、ご賛同いただける方の情報を、築理会会員のみが閲覧できる【築理会WEB名簿】の運用も開始する予定です。

会員のお名前や卒業年、研究室名などによる検索が可能となる他、ご自分の紹介を載せる「My Page機能」などを搭載する予定です。ご期待ください。（秋号でのご紹介を予定しています。）

新システム導入にあたり、システム構築費用やクラウドサーバーの管理費など支出が増えて来ております。現在、会員数約8500人に対して終身会員（卒業30年以上の方）約400名、昨年度の会費納入者数は約200名です。皆様の会費の納入と、終身会員の皆様にはご支援のほど、ようお願いいたします。

<https://chikurikai.org/>

ここで赤丸印を付けた「情報確認・登録」のボタンをクリックすると、あなたの登録情報を確認する画面が現れます。

こちらは、この秋から運用開始予定の【築理会WEB名簿】で公開できる情報です。WEB名簿で公開に同意した方については、会員に情報を提供していく形になります。

デジタル名簿システムのこれから

【築理会WEB名簿】の運用を開始して 築理会会員相互の交流活性化に役立てます

この秋にも運用を開始する予定の【築理会WEB名簿】は、築理会会員間の交流活性化に役立つデジタルツールを目指します。会員の氏名や卒業年、研究室名などによる検索が可能になるほか、ご自分の日頃の活動などを紹介する「My Page（マイページ）機能」などを搭載する予定です。このシステムは、築理会の会員の方で利用を希望する方の情報を希望する方が見ることができるものです。「会員コード」と「パスワード」で管理します。

これまで、紙の名簿に頼っていた名簿システムをデジタル化・クラウド化する事により、各自の情報の登録・修正や卒業生の情報がいつでも、どこでも検索して取り出せる環境を整えます。築理会の会員数も8500人を超え、新しい卒業生は59期生を数えています。卒業生はさまざまな分野や場面で活躍し、成果を上げ、理科大建築の存在感は増えています。石橋新会長のもと築理会は、会員の活動を顕在化（見える化）して、益々の活性化を図る方針を掲げており、【築理会WEB名簿】は、これからの様々な会員活動・会員ネットワークをサポートするものとなります。

下の図は、現在構築中の機能のイメージです。左は会員情報の検索/閲覧画面のイメージで、PDFによる出力が可能になります。右上はMy Pageのイメージ画面。My Pageについては、新しい投稿があった人の情報を表示する機能も搭載予定です。【築理会WEB名簿】の詳細な機能や活用方法は築理会会報秋号で紹介する予定です。

名簿出力画面のイメージ



My Page の
イメージ



2023 年度東京理科大学工学部建築学科 卒業制作および夜間主社会人コース 築理会賞審査会

2024年2月10日（土）葛飾キャンパス 卒業制作講評会・築理会賞審査会にて、鶴岡千里さんの作品「旅人の足跡」が、また2月12日（月）神楽坂キャンパス 夜間主社会人コース卒業設計築理会賞審査会にて、高橋武雄さんの作品「ステーションスクエアと祈りの場 都会のお寺を再び人の集まる場所にするための一つの提案」が選定されました。

作品は卒業設計ウェブサイト <https://tus-projects.jp/> でご覧いただけます。



審査の様子

鋼管柱トップ・プレートジョイント工法 エクス・ティー・ピー
ECS-TP (Top Plate)

鉄骨構造物に革命を。
杭と柱の一体化。

株式会社 三 誠

SANSEI INC.

Tel: 03-3511-0211 Fax: 03-3551-0217 Mail: info@sansei-inc.co.jp
〒104-0033 東京都中央区新川 1-8-8 アクロス新川ビル 9F

北海道営業所 / 東北営業所 / 新潟営業所 / 北陸出張所 / 北関東営業所 / 千葉出張所 / 神奈川出張所 / 関西営業所 / 中四国営業所 / 九州営業所 / 沖縄営業所



SANSEI Holdings, inc.

エア―断震住宅

株式会社 三誠 AIR断震システム
<http://www.airdانشin.jp/>

究極の地震対策住宅

国土交通大臣認定取得
国住指第2036号





先輩と語る 2023 年 変容の時代をどう生きる？ —— 卒業からの10年、その先の10年を考える ——

ファシリテーター：下野 恵理子 / パネリスト：田中 達朗・工藤 俊輔・堤坂 浩之・岡崎 絢・SANAWO・藤盛 雄志・阿嶋 浩

築理会は建築学科と連携し、社会で活躍する卒業生と学生が直接交流する機会を提供しています。先輩が培った経験や知識の共有が、学生の成長の糧になることを願った交流会「先輩と語る」もその1つです。年代を超えた連帯感や協力関係の構築が、同窓会活動の活性化につながることを期待しています。

「先輩と語る」の趣旨は、先輩がキャリアを形成する上で経験した貴重な「生の情報」を伝えることで、学生の進路選択をサポートすることです。時代の移ろいと共に開催形式を少しずつ変えながら、毎年開催しています。今年は学部3年生の授業カリキュラムに組み込まれ、多くの学生にご参加いただきました。企画・実施は卒業後10年目の先輩が中心となって担当しました。プロジェクトマネージャーや左官職人、グラフィックデザイナーなどさまざまな職に就いたパネリストが集まり、それぞれの仕事観や経歴を語りました。先輩がたどった10年間を知ることで、学生は自らの10年後を少しリアルに想像できたのではないのでしょうか。パネルディスカッションの後には、パネリスト以外の卒業生や野田建築会の卒業生も参加し、学生と双方向のワークショップでリアルに意見交換をしました。

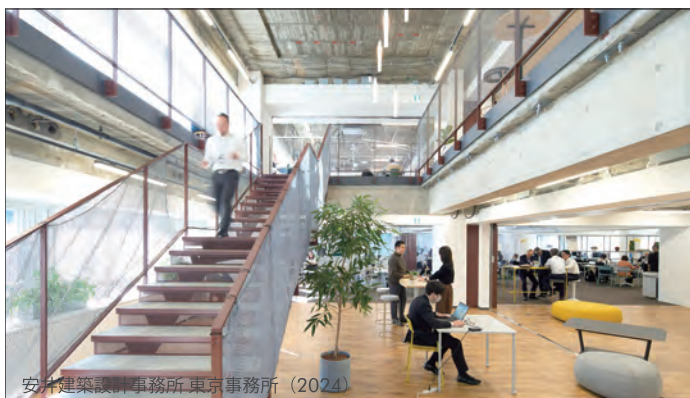
さて、建築学科の学生の就職先はどこだろう？と考えると、設計事務所やゼネコン、サブコン、デベロッパー、メーカー、国・地方自治体あたりが思い浮かぶでしょう。建築は、人の生活基盤…インフラ、建物、空間…を創る大事な役割を担っています。就いては生命の安全や、心の安心、生活の豊かさを生み出す、人が生きていくことすべてに関わる学問です。その分、

建築を学んでから就く仕事は多岐にわたります。実際、建築学科を卒業した先輩たちはいろいろな分野で活躍しています。後輩に伝えたい話題は尽きません。

「先輩と語る」は2010年頃からスタートしたと聞いています。遡ることITバブル崩壊後からリーマン・ショック後の就職氷河期に、学生の就職活動を応援する目的で立ち上がりました。これからは人手不足の時代に突入し、建築を取り巻く制度や状況は様変わりしてきます。近年でも、新型コロナウイルス禍でテレワークがあつという間に浸透し、働き方改革が進みました。建材価格の高騰は、建設業界の商習慣や契約のあり方を見直す大きな契機になっています。10年前後で状況が大きく変わる時代の中では、社会における自分の役割や成長に見通しを立てにくいものです。今年の「先輩と語る」は、そんな将来の不安を抱える学生が、目的を持って学生生活を過ごし、充実した人生を送るためのきっかけづくりの場になったのではないのでしょうか。

築理会を軸にした、こうした先輩・後輩間の交流や情報共有が、今後も同窓生の学びや成長を促進する重要な要素となっていくことでしょう。

鈴木敦子（学科連携委員会副委員長）



安井建築設計事務所 東京事務所（2024）

人やまちを元気にする

✧ 安井建築設計事務所

代表取締役社長 佐野 吉彦（1981年院卒）

おかげさまで2024年4月1日に創業100周年を迎えました。

粋なお江戸の坂の街

神楽坂のはじまりをデザインする

審査員長 = 相田武文 日本建築家協会関東甲信越支部新宿地域会名誉会長・芝浦工業大学名誉教授

審査委員 = 伊藤博之 工学院大学教授 / 小堀哲夫 法政大学教授 / 坂牛卓 東京理科大学教授

藤井由里 早稲田大学教授 / 石橋敦之 築理会会長 / 飯田公子 神楽坂おかみさん会代表

昨年、社会に働きかける新たな試みとして、学生を対象にした第1回新宿みらいアイデアコンペティションが開催されました。今回は、運営に深く携わった小田将司さん（2014年卒）に開催経緯から結果までを執筆いただきました。

昨年2月、発起人のひとりである前築理会会長の佐野吉彦氏より理科大OBの私に声が掛かり、企画委員を担当することになりました。3月からは月一回程度の会議を行い、コンペティション名称やテーマ、対象敷地について企画メンバーで案を出し合いました。築理会とJIA新宿地域会共同主催の学生コンペということで、双方にゆかりのある新宿区神楽坂で提案を募ることとし、コンペ名称は「新宿みらいアイデアコンペティション」となりました。対象敷地は、神楽坂おかみさん会代表の飯田公子さんにも助言をいただき、神楽坂下交差点（牛込見附公衆便所を含む神楽坂入口エリア）に決定しました。「粋なお江戸の坂のまち 神楽坂のはじまりをデザインする」というテーマは敷地が神楽坂下交差点に決まったことから生まれたものですが、新宿みらいアイデアコンペティションのはじまりにも相応しい素敵なテーマになったのではないかと思います。

また、多くのアイデアコンペとは異なり実在する敷地を対象にしたこと、歴史ある街並みが残る神楽坂について学生に深く知ってもらいたいという思いから、郷土史研究家の谷口典子さんにガイドをしていただく

街歩きイベントも開催しました。JR飯田橋駅西口前の江戸城牛込門跡からスタートし、神楽坂下、見番横丁、かくれんぼ横丁などを歩きながら、坂の街づくりの歴史から芸者さんのエピソードまで多くの興味深いお話を聴くことができました。

さて、学生から集まった提案は新宿区にキャンパスのある大学で教授を務める建築家の先生方と飯田さんによって審査され、最優秀賞1点と優秀賞4点（うち神楽坂建築賞1点）が選ばれました。理科大からも工学部建築学科社会人コースの中山琴未さんの「交叉する建築」が優秀賞に選ばれています。最優秀賞となった「神楽坂CT～みんなで拓く路地空間～」は外堀通りの拡幅ラインに沿って建物を切断することで、隠れていた路地空間が神楽坂の入口へと顔を出す独創的な提案であり、審査員のほとんどが最優秀賞に推す結果となりました。

12月には表彰式と共に「神楽坂のみらい」と題したシンポジウムが開催され、学生による提案プレゼンや審査委員のレクチャーを通して参加者の交流も行われました。学生たちは提案ボードを囲んで活発な議論を交わしていました。

第1回新宿みらいアイデアコンペティションは、学生の提案に賞を与えるだけではなく、街歩きやシンポジウムを通して参加者全員が学び、地域の人々に学生の柔軟なアイデアを共有することもできました。みらいへと繋がるアイデアコンペになったのではないかと思います。



神楽坂街歩きの様子



2023/12/17 プレゼンの様子

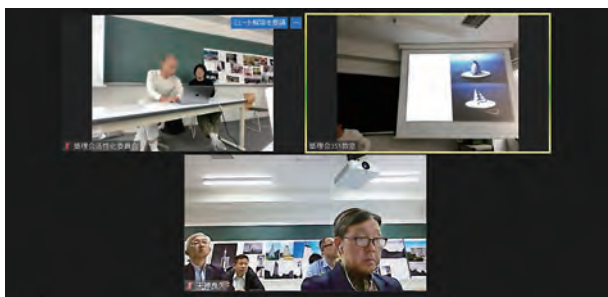
ホームカミングデー開催レビュー

2023年10月29日（日）第18回ホームカミングデーが神楽坂キャンパスで開催されました。「築理会・野田建築会」は合同で「展示」と「講演会」を企画・実施しました。

「展示」は、3号館351教室にて、建設共同企業体の合同展示と、2022年度卒業制作築理会賞を受賞した「吉田周和君：工学部一部、阿嶋浩君：社会人学部」の作品を展示。「講演会」は3号館352教室にて実施。第一部は12:30～14:00 川辺直哉:建築家+坂牛卓:東京理科大学教授のクロストークが行われました。川辺氏からは、共同住宅の設計実例や入賞されたコンペ作品の解説。坂牛先生からは、教育の話や読んで楽しい建築の本の情報をいただきました。また、質疑コーナーでは、会場から「木造高層ビルに関してどう思うか？」の質問があり、「木造ハイブリッドの組み合わせ、ウーン工科大学の取組み、日本の防火の規制が高い現状、木材に関するイメージ・流通が異なる状況等」の回答をいただき、来場者も海外・新規情報の会話を楽しんでいました。第二部は14:30～16:00 宇野求:東京理科大学嘱託教授のミニ講演会を実施しました。2022年3月のコロナ禍に行われた宇野先生の最終講義の苦労話から、「理科大愛と建築愛が育てる教育の取り組み」に関し、また、理科大建築学科の良さとして「意匠・環境・エンジニアリングを教えている。卒業生は人気がある」といった話は、OB・OGとして頼もしい後輩の現状を聞くことができました。

講演会では、築理会として初のZoomによるライブ配信も実施しました。今後、会場に来られない先輩諸氏も是非インターネット経由で参加いただければ幸いです。

天神良久（活性化委員会委員長）



講演会第一部：建築家:川辺直哉+坂牛卓:東京理科大学教授



講演会第二部：宇野求:東京理科大学嘱託教授

築理会ゴルフ同好会コンペ開催報告

2023年11月15日第36回目を数える「ゴルフコンペ」が、利根パークゴルフ場（JR常磐線・取手駅から徒歩10分の好立地）で開催されました。

今回は全4組での開催となり、1期の卒業生（森本、村山氏）から17期卒業生の14名が参加しました。天候にも恵まれ、河川敷の平らなコースでスコアにも恵まれ、楽しい一日を過ごすことができました。プレー後は2階食堂で表彰式が開催され、優勝は7期の萩原幸男さん、準優勝は17期の千葉登之弥さんでした。今後も4月と11月の定例会として同ゴルフ場での開催を予定しています。お問い合わせ、参加希望は、築理会までお待ちしています。

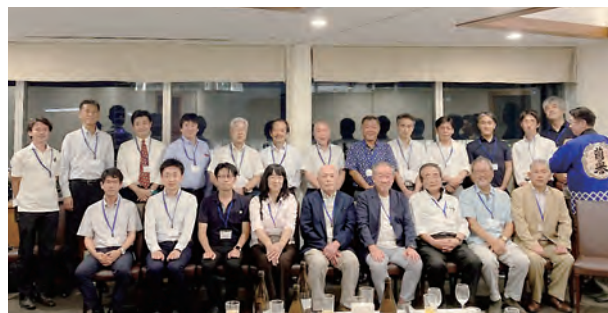
天神良久（活性化委員会委員長）



理窓会建築かながわ 開催のご報告

昨年、2023年8月4日（金）横浜市桜木町のワシントンホテルで30名ほどのメンバーが集まり、ベイサイドの夜景を望みながら楽しい時間を過ごしました。この会は神奈川県に在住または勤務されている工学部・理工学部建築学科の卒業生で10年前に発足し、コロナ開けの今回は100名ほどのメンバーに声をかけたそうです。神奈川県庁・横浜市・相模原市などにお勤めの方からゼネコン・設計事務所など、また1期生から令和卒業の方までと、幅広く交流を深めた集まりとなりました。1975卒10期の上原伸一さんがまとめ役をされています。

石橋敦之（築理会会長）



集合写真

2024築理会+野田建築会合同新年会

総勢65名で「おやじバンド」のライブを満喫

2024年1月11日（木）18:00～21:00 築理会・野田建築会合同新年会が、コロナ禍明け4年ぶりに神楽坂の理窓会倶楽部で開催されました。今回は築理会監査役の三輪富成さんが率いるおやじバンド「アメリカンフォークバンド“Sunny Side Top”」のライブコンサートを楽しみながらの新年会を企画、Zoomによるライブ配信も行われ、大層盛り上がった新年会となりました。

参加者は総勢65名、野田建築会からも5名が駆けつ

けていただき、新年会の最後は、参加者全員と佐野前築理会会長による校歌斉唱が行われ、あっという間の3時間の盛会となりました。会を運営いただいた縁の下での力持の「築理会有志」の皆様、素晴らしい新年会の企画・運営誠にありがとうございました。来年以降も楽しい新年会の定例開催を予定していますので、ふるってのリアル参加+ライブ参加での再会をお待ちしています。

天神良久（活性化委員会委員長）



“Sunny Side Top” のライブコンサート ライブを楽しむ参加者



野田建築会から「近況報告」



集合写真「はい！チーズ」

故沖塩壮一郎名誉教授の ご逝去と偲ぶ会開催のご報告

昨年、2023年5月5日（金）夜、多臓器不全のため、ご療養中のご自宅でご逝去されました。

沖塩研究室1期生の石橋（築理会会長）と元NTTファシリティーズの横田昌幸さま他が発起人となり、8月20日、先生が生前愛されておりました六本木の国際文化会館で、偲ぶ会を行いました。JFMA会長、オフィス学会会長をはじめとした各界の皆さまと卒業生など約200名が集まり、生前の先生のご活躍を偲びました。



2024年度 築理会総会、講演会、 懇親会のお知らせ 5月25日（土）

総会、講演会：神楽坂校舎1号館17階講堂及びZoom
ミーティング

懇親会：PORTA神楽坂6階 理窓会倶楽部
開催の準備をしています。詳細はホームページで公開予定です。

会費納入のお願い

築理会は皆さまの会費により活動しています。卒業生、在校生への多様な活動のために、会費納入をお願いします。築理会やりぼんの活動などに対する寄付も歓迎いたします。会費納入は振込用紙使用のほか、直接振り込みもできます。

編集長：安達 功

編集委員：中東 壮史、山岸 隆、近藤 剛啓、飯山 道久、
栢木 まどか、丸山 峰寛

編集後記：安達 功

3年生のカリキュラムとして卒後10年の先輩中心に運営することになった「先輩と語る」。学生が自身の10年後の姿を身近かつリアルに感じられるプログラムに成長しました。今年は2014年卒の皆様の出番です。よろしくお願いいたします！